

新宿から夢の舞台へ



左からシנקロナイズドスイミングの三井梨紗子選手、中山区長、視覚障害者柔道の米田真由美選手（国立競技場で）

あけまして
おめでどう
ございます



新宿区長
中山弘子

今年は何（うま）年です。区民の皆さまにとって、本年が、東北のはね駒のように元気で力強く、めざましい一年であることを願っています。

昭和39年の東京オリンピック・パラリンピックから、半世紀を迎えます。前回は、若かった高度成長期の日本を世界にお披露目したものでしたが、6年後の東京オリンピック・パラリンピックは、東日本大震災からの復興と、成熟した都市の活気、おもてなしを世界に示す大会になるよう、新宿区も力を尽くしたいと思います。オリンピック・パラリンピックに向け、今年が最後のお正月となる国立競技場で、新春特集として新宿区民であるアスリートのお二人と鼎談をしましたので、ぜひ、お読みください。

さて、新宿区は、民間の調査機関による全国1千の区市町村を対象とした「地域ブランド調査」で、魅力度ランキングで24位となり、東京都内では第1位でした。別の全国を対象とした「高齢化対応度調査」でも、新宿区は702区市中で3位となっています。「医療・介護」「生活支援・予防」など、各部門で施策を充実した結果が評価されたものです。

また、新宿区で生まれた子どもの数は2千324人（平成24年）と、最も減少した千688人（平成8年）から4割増えしており、新宿区を「子育てしやすいまち」と考える人の割合も大きく増加しています。小学生の保護者では、平成15年度の16・6%から平成20年度には35%となり、今回25年度の調査では、なんと54・9%となりました。「子育てしやすいまち」と考える理由は、交通機関等が便利であるという都心居住の良さとともに、保育園、子ども園や幼稚園、小学校等の子育て施策が充実しているということが大きく挙げられています。

これからも、新宿のまちの文化性やブランド力を高め、子どもから高齢者まで、誰もがより住みやすい新宿区をつくっていきたいと考えています。本年もどうぞよろしくお申し込み申し上げます。